

東京駅丸の内駅舎

明治政府の近代的な官庁街や鉄道施設の整備方針により建設に着手され、大正3(1914)年に竣工した鉄骨レンガ造の建築物で、辰野金吾が設計しました。建設当初使用されたレンガは、構造レンガは渋沢栄一らが設立した日本煉瓦製造、化粧レンガには西村勝三が設立し、渋沢栄一も支援した品川白煉瓦のものが使用されました。

平成15(2003)年には、国の重要文化財に指定されました。

令和6(2024)年7月3日に通用が開始された新1万円札の裏面には東京駅丸の内駅舎が描かれています。



東京大回廊写真コンテスト入選作品
「ミニチュアみたいな東京駅」 桐生 絵美



渋沢史料館所蔵



国立国会図書館デジタルコレクション

史跡常磐橋・常盤橋公園

江戸城の常盤橋門跡、日本橋川に架かる常磐橋は、明治10(1877)年に架けられた石橋です。橋は東日本大震災で被害を受ける前にも関東大震災で大きな被害を受けました。現在、常盤橋公園には氏の功績をたたえた銅像が建っています。

この渋沢栄一像は、彫刻家として初めて文化勲章を受章したことで知られる朝倉文夫により製作され、昭和8(1933)年に設置されました。元の銅像は第二次世界大戦時に金属提供のため撤去されましたが、再び朝倉文夫の製作により昭和30(1955)年11月に再建されました。その後、東京都への寄贈を経て千代田区に移管されました。



渋沢史料館所蔵